

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当金 毎年3月31日
 中間配当金 毎年9月30日

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関
株主名簿管理人
事務取扱場所
(郵便物送付先)

大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒183-8701

東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)
(インターネット
ホームページURL)

☎ 0120-176-417

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

単元株式数
公告方法

100株

電子公告の方法により行います。

(当社ホームページURL <http://www.manac-inc.co.jp/>)

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合、日本経済新聞に掲載する方法で行います。

上場証券取引所

東京証券取引所 市場第二部



〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地
TEL 084-954-3330 FAX 084-957-4370

<http://www.manac-inc.co.jp/>

マナックは、化学をベースに、技術と知識の融合により
先端技術産業が求める機能を開発・提供する

研究開発型モノづくり会社です。



第67期中間のご報告

株主通信

2011年4月1日▶2011年9月30日

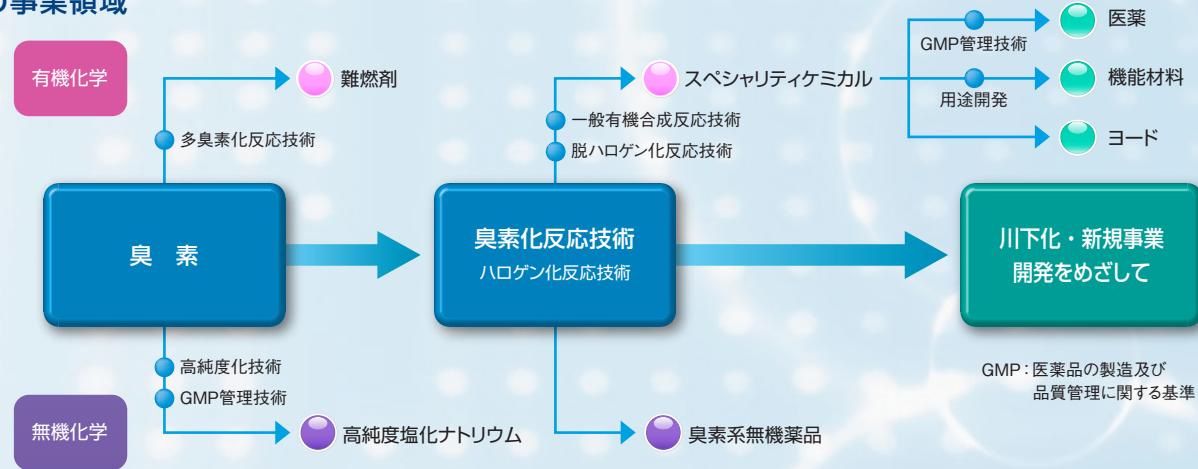


証券コード: 4364

スペシャリティケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する ～進化する技術、そして進化する人間をめざして～

スペシャリティケミカルとは、電子・情報・医療といった先端技術産業が求めるニーズ機能を、化学技術を基にして提供する「機能性化学品」をいいます。当社は、求められる化学品を単に受託製造するのではなく、それらに関連した情報を組み合わせることにより、オリジナリティーのある製品を提供し、世界への貢献を行います。

当社の事業領域



各事業の戦略

難燃剤事業

長年にわたって蓄積してきた開発技術、製造技術を駆使し、お客様の信頼に応え、市場の拡大をめざします。

フライングケミカル事業

機能材料事業

強化した生産・開発体制を駆使して、新たな機能材料の開発・供給を本格軌道に乗せ、マナックブランドと高付加価値を追求します。

医薬事業

原薬製造プラント及び新機能開発設備の導入、更には新規開発品の拡大・企業化を視野に入れながら、自社技術の開発・充実に推進します。

ヨード事業

柱となる製品群の拡大と新規製品開発により、国内市場・海外市場のシェアアップをめざします。

SC・グループ会社

連結子会社である八幸通商株式会社、南京八幸薬業科技有限公司を中心に、生産・販売に関するアライアンス戦略を進めます。

ヘルスサポート事業

健康支援ビジネスの構築を推進し、川下製品の開発、事業化をめざします。



代表取締役社長 杉之原 祥二

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第67期の中間期株主通信をお届けするにあたり、皆様の日頃のご支援とご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。

当上半期の経営環境は、円高がさらに進み、対ドル為替の水準が7月より80円を切り、その後も70円台が続いております。また欧州での財政不安などから世界経済に対する危機感、先行き不透明感などにより厳しい事業環境でありました。

さて、当社グループでは本年度「グローバル・マナック」というスローガンを掲げ、「売れモノづくり」「国際市場の開拓」「利益重視」の3つのテーマに取り組んでおります。

「売れモノづくり」では、マーケティングに基づいてのニッチな領域での製品開発を進めており、また「国際市場の開拓」では、本年度より事業部内に国際グループを新設し、当社が強みを持つ臭素・ヨウ素技術を活かした製品市場の開拓を、アジアやヨーロッパなどで本格的に取り組んでおります。

今後も景気は引き続き厳しい状況が続くと予測しておりますが、これからも、お客様に密着し、市場の変化を読み取り、マーケティングに基づいた事業展開によって収益の拡大を図り、配当額の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、マナックグループに対しまして、さらなるご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

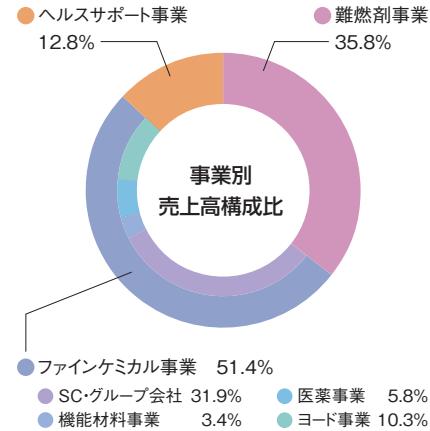
化学業界におきましては、在庫調整が一巡した後、需要回復傾向にありましたが、急激な円高の進行、株式相場の低迷、欧州における財政不安などから本格回復に至っており、先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループでは、積極的な販売活動、研究開発、生産工程の改善、業務の効率化など事業全般の業績改善を進めてまいりました。

その結果、第67期中間期の売上高は4,748百万円となり(前年同期比では△3百万円)、経常利益は114百万円となりました。

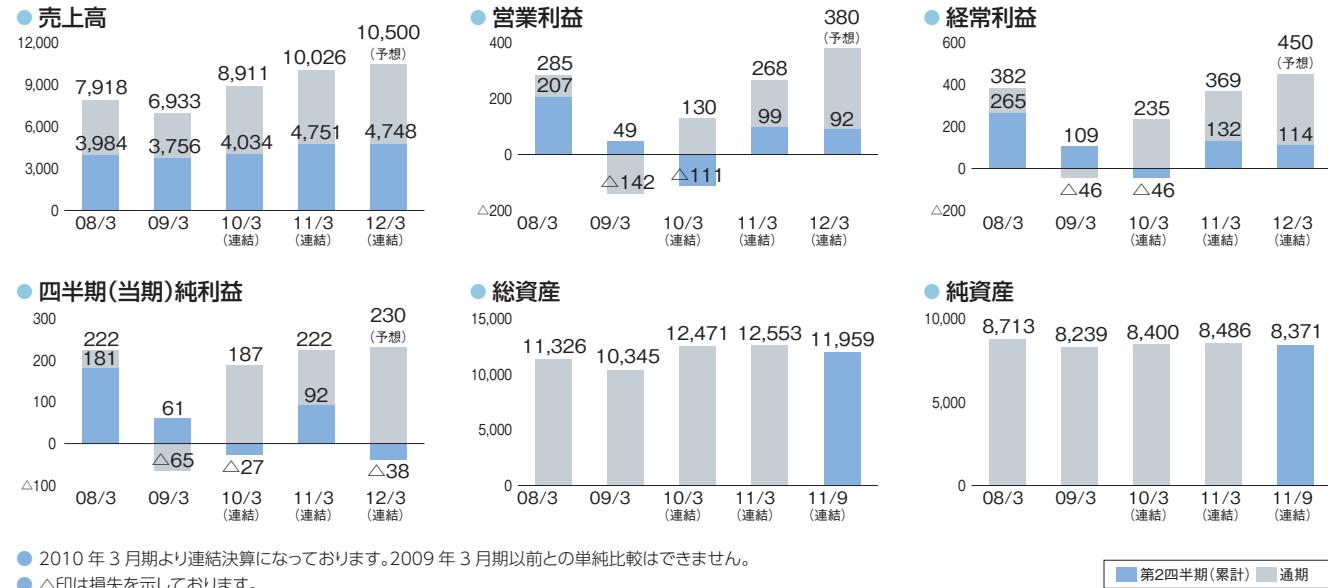
四半期純利益は、その他有価証券の減損処理による評価損など特別損失を計上したことから△38百万円となりました。

セグメント別では、ファインケミカル事業の売上高は2,440百万円、難燃剤事業の売上高は1,698百万円、ヘルスサポート事業の売上高は610百万円となりました。



■ 財務ハイライト

(単位：百万円)



● 2010年3月期より連結決算になっております。2009年3月期以前の単純比較はできません。
 ● △印は損失を示しております。

■ 配当関連情報

● 当社の株主還元方針

利益配分につきましては、長期的観点から事業収益の拡大と株主資本純利益率の向上を図るとともに、自己資本の充実と財務体質強化、株主の皆様への長期的、安定的な配当水準の維持に努めながら、利益配当額を決定していく予定です。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

● 第67期の配当金

第67期の中間配当金につきましては、1株当たり2円50銭とすることに決定いたしました。

第67期の年間配当につきましては、期末配当金として予定している5円を加え、7円50銭を予定しております。

内部留保資金につきましては、お客様のニーズに応える新製品・新技術開発のために必要な投資ができるよう備えてまいり所存であります。



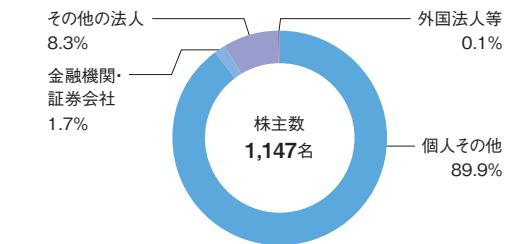
■ 株式の状況 (2011年9月30日現在)

発行可能株式総数 23,200,000株
 発行済株式総数 8,625,000株
 株主数 1,147名
 大株主(上位10名)

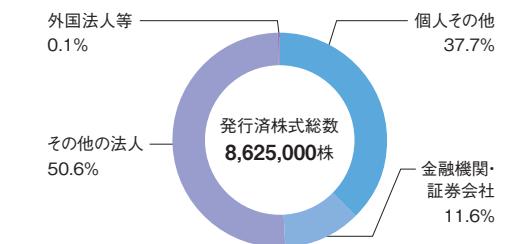
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東ソー株式会社	1,608	20.0
財団法人松永育英奨学会	916	11.4
三菱製紙販売株式会社	607	7.6
株式会社広島銀行	322	4.0
杉之原 祥二	256	3.2
マナック社員持株会	248	3.1
合同資源産業株式会社	200	2.5
日本生命保険相互会社	148	1.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	140	1.7
光和物産株式会社	121	1.5

(注) 1. 上記のほか、当社保有の自己株式が590千株あります。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

● 株主数別分布状況



● 株式数別分布状況



▶ 難燃剤事業

主な特徴・用途

高耐熱性、耐候性、精密部品に対応し優れた高機能難燃剤を開発、提供しております。

主な用途として、テレビ、ビデオ、オーディオ機器などの家電製品を中心に、近年では、パソコン、携帯電話などのIT関連機器、自動車などに用いられるプラスチックに添加されております。

当中間期の概況

家電製品や携帯情報端末などIT関連製品および建築材料関連のプラスチック分野に使用される材料が前年同期を上回る需要となり、安定的に推移いたしました。

その結果、同事業の売上高は1,698百万円となりました。



▶ ファインケミカル事業

● 機能材料事業

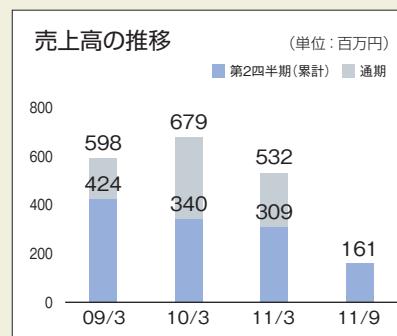
主な特徴・用途

パソコン、携帯電話、デジタルカメラなどのメモリーやIC素子の周辺材料、半導体の絶縁膜、コート材などに使用する機能性材料、電子材料などの化学素材を開発・製造しております。耐熱性や絶縁性に優れた特性を活かし、航空宇宙関連やその他の分野に積極的に用途開発を行っております。

当中間期の概況

機能材料の主要製品において、海外より競合製品が参入したことによる影響で、売上高は大きく落ち込み厳しい販売状況となりました。

その結果、同事業の売上高は161百万円となりました。



● 医薬事業

主な特徴・用途

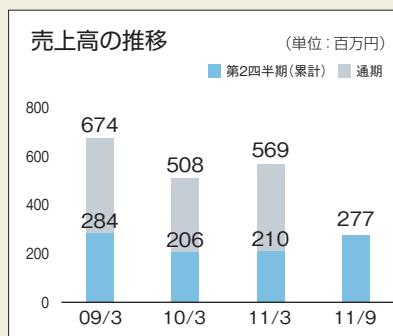
多数の製薬メーカーの依頼を受けて原薬・中間体の共同開発や原料の供給を行っております。

中間体から最終原薬までの受託が可能な製造体制、充実した設備、品質管理体制を整え、事業拡大に向けた体制が整備されております。

当中間期の概況

研究開発と営業活動に積極的に取り組んだことにより、医薬品関連製品は景気に左右されることなく堅調に推移いたしました。

その結果、同事業の売上高は277百万円となりました。



● ヨード事業

主な特徴・用途

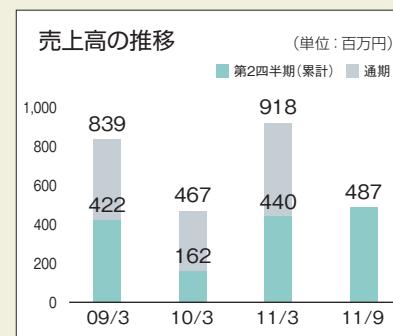
ヨウ素の有機化合物を中心に開発・製造・販売を行っております。

ヨウ素は、造影剤、殺菌、医薬品、電子材料、写真薬など非常に幅広い分野で利用されております。当社は複写機・プリンター・フラットパネルディスプレイに使用される中間体を中心に供給しております。

当中間期の概況

複写機用途やフラットパネルディスプレイ関連の需要に支えられ、安定的に推移いたしました。

その結果、同事業の売上高は487百万円となりました。



スペシャルティケミカル

● SC・グループ会社

主な特徴・用途

近年デジタル化の急速な進展に伴い必要とされる素材の切り替わりがめまぐるしい、感光剤、情報記録材料、電子材料分野に、当社に蓄積された技術で高付加価値製品を提供しています。また、連結子会社である八幸通商株式会社とともに、戦略的アライアンスを進めております。

当中間期の概況

半導体、電子・精密機器等のハイテク分野に使用される材料が業界全体での円高による在庫調整で前年同期を若干下回る販売状況となりました。

その結果、同事業の売上高は単体で348百万円、連結で1,513百万円となりました。



▶ ヘルスサポート事業

主な特徴・用途

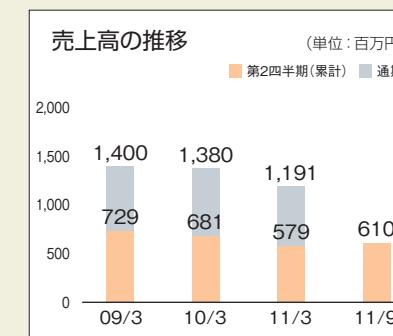
海水成分を活用した当社発祥の事業であります。製品としては、日本薬局方規格・日本工業規格に適合した塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化マグネシウム等を生産しております。

用途としましては、人工透析液原料及び試薬剤、食品添加物など医療・食品分野で使用されております。

当中間期の概況

人工透析剤として使用される原料は国内販売がほとんどを占める中、需要は安定的に推移いたしました。

その結果、同事業の売上高は610百万円となりました。



四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 2011年9月30日現在	前期末 2011年3月31日現在
資産の部		
流動資産	7,713	8,296
固定資産	4,246	4,256
有形固定資産	2,969	2,960
無形固定資産	4	4
投資その他の資産	1,273	1,291
資産合計	11,959	12,553
負債の部		
流動負債	2,882	3,301
固定負債	705	765
負債合計	3,588	4,066
純資産の部		
株主資本	8,477	8,576
資本金	1,757	1,757
資本剰余金	1,947	1,947
利益剰余金	5,015	5,114
自己株式	△ 243	△ 243
その他の包括利益累計額	△ 106	△ 90
純資産合計	8,371	8,486
負債純資産合計	11,959	12,553

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) 2011年4月 1日から 2011年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2010年4月 1日から 2010年9月30日まで
売上高	4,748	4,751
売上原価	3,851	3,835
売上総利益	897	915
販売費及び一般管理費	804	815
営業利益	92	99
営業外収益	64	79
営業外費用	43	46
経常利益	114	132
特別利益	0	2
特別損失	141	1
税金等調整前四半期純利益	△ 26	133
法人税、住民税及び事業税	24	63
法人税等調整額	△ 12	△ 22
四半期純利益	△ 38	92

△印は損失を示しております。

四半期単体貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 2011年9月30日現在	前期末 2011年3月31日現在
資産の部		
流動資産	6,878	7,080
固定資産	3,720	3,763
有形固定資産	2,368	2,395
無形固定資産	2	3
投資その他の資産	1,348	1,364
資産合計	10,598	10,843
負債の部		
流動負債	1,996	2,070
固定負債	376	451
負債合計	2,372	2,521
純資産の部		
株主資本	8,241	8,348
資本金	1,757	1,757
資本剰余金	1,947	1,947
利益剰余金	4,779	4,886
自己株式	△ 243	△ 243
評価・換算差額等	△ 15	△ 26
純資産合計	8,225	8,321
負債純資産合計	10,598	10,843

四半期単体損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) 2011年4月 1日から 2011年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2010年4月 1日から 2010年9月30日まで
売上高	3,581	3,423
売上原価	2,893	2,715
売上総利益	688	707
販売費及び一般管理費	619	637
営業利益	68	70
営業外収益	45	56
営業外費用	20	11
経常利益	93	115
特別利益	0	1
特別損失	141	1
税引前四半期純利益	△ 46	115
法人税、住民税及び事業税	15	58
法人税等調整額	16	19
四半期純利益	△ 46	76

△印は損失を示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) 2011年4月 1日から 2011年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2010年4月 1日から 2010年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	190	479
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 272	△ 568
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 429	△ 326
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 13	△ 11
現金及び現金同等物の増減額	△ 524	△ 426
現金及び現金同等物の期首残高	1,502	1,881
現金及び現金同等物の四半期末残高	978	1,454

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは190百万円の収入となりました。これは主に売掛債権の減少や仕入債務の増加によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは272百万円の減少となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出などによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは429百万円の減少となりました。これは主に借入金の返済によるものです。

この結果、当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、期首と比較して524百万円減少し、978百万円となりました。

四半期単体株主資本等変動計算書

(2011年4月1日から2011年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本						評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金		自己株式	株主資本 合計		
			利益準備金	その他利益剰余金				
当期首 残高	1,757	1,947	149	4,736	△ 243	8,348	△ 26	8,321
当第2四半期中の変動額								
剰余金の配当				△ 60		△ 60		△ 60
四半期純利益				△ 46		△ 46		△ 46
自己株式の取得					0	0		0
株主資本以外の項目の 当第2四半期中の変動額(純額)							10	10
当第2四半期中の変動額合計	—	—	—	△ 106	0	△ 106	10	△ 96
当期末 残高	1,757	1,947	149	4,630	△ 243	8,241	△ 15	8,225

■ 会社概要 (2011年9月30日現在)

社名	マナック株式会社 MANAC INCORPORATED
本社所在地	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地
設立	1948年(昭和23年)5月
資本金	17億5,750万円
従業員数	184名(グループ従業員数329名)
事業内容	難燃剤、医薬品、食品添加物、写真感光材料、高機能性材料、電子材料、染料、香料など様々な分野の先端技術産業に原材料を供給

■ 主な事業所

本 社	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地 TEL : 084-954-3330 FAX : 084-957-4370
東京支社	〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目8番4号 日本橋さくら通りビル6階 TEL : 03-3242-2561 FAX : 03-3242-2564
大阪営業所	〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目4番6号 ミフネ道修町ビル8階 TEL : 06-6205-6771 FAX : 06-6227-5978
福山工場	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地 TEL : 084-954-3330 FAX : 084-953-8523
郷分事業所	〒720-0093 広島県福山市郷分町950番地の1 TEL : 084-951-2501 FAX : 084-951-2502

■ 役員 (2011年9月30日現在)

代表取締役社長	杉之原 祥二
代表取締役専務	三道 克己
常務取締役	村田 耕也
取締役	北村 彰秀
取締役	石井 潔
取締役	門脇 進
取締役	大久保 俊司
常勤監査役	日野 智章
監査役	内海 康仁
監査役	本田 祐二

(注) 1. 取締役 門脇 進氏及び大久保俊司氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 内海康仁氏及び本田祐二氏は、社外監査役であります。

■ 子会社

社名	八幸通商株式会社 [100%出資子会社で南京八幸業業科技有限公司(中国・南京市)も連結子会社としております。]
本社	〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2丁目7番6号 晴花ビル3階
事業内容	化学薬品の製造、販売
社名	エムシーサービス株式会社
本社	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地
事業内容	事務・物流業務の受託

■ 関連会社

社名	ヨード・ファインケム株式会社
本社	〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目12番6号 東信商事ビル7階
事業内容	ヨード化合物の製造、販売



▶ 本社 / 福山工場



▶ 東京支社



▶ 大阪営業所



▶ 郷分事業所